

未来への一票

はじまります! 18歳選挙権



古河市合併10周年



こ が
古 河

広
報

No.126

3
MARCH
2016

選挙権年齢が「18歳以上」に 引き下げられます

選挙権年齢をこれまでの「20歳以上」から「18歳以上」に引き下げる改正公職選挙法が平成27年6月17日に成立しました。今年夏に予定されている参議院議員通常選挙から実施され、全国で約240万人、市内でも約2,700人が有権者となる予定です。

高校生の中には「政治に関心がない」「よく分からない」といった人も少なくありません。今回の選挙権年齢引き下げの背景には「少子高齢化の進む日本で生きていく世代にも、未来の日本の在り方を決める政治に参加してもらいたい」という意図があります。

市では、「高校生議会」の開催や啓発パンフレットの配布など、幅広い世代に向けて政治や選挙に関して関心を高める啓発活動に取り組んでいます。

【問】総務課(総和庁舎) ☎92-3111

選挙管理委員会事務局(総和庁舎) ☎92-3111

昭和20年以来70年ぶりの
選挙権年齢の引き下げ

公職選挙法の改正は、平成28年6月19日以降に公示される国政選挙(衆議院議員総選挙または参議院議員通常選挙)から適用され、その後の地方選挙(知事選挙や市長・市議会議員選挙など)でも満18歳以上の人が投票できるようになります。

選挙権年齢が変更されるのは「25歳以上」から「20歳以上」に引き下げられた昭和20(1945)年以来70年ぶりです。

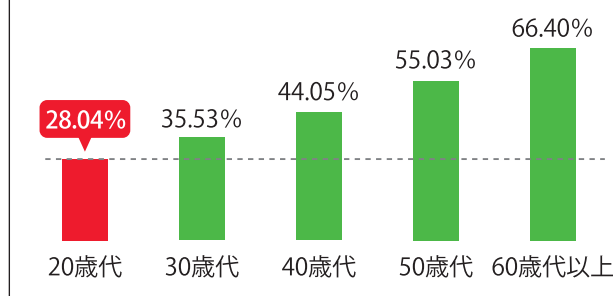
近年は、国政選挙、地方選挙とも投票率の低下が社会問題となっています。

例えば、昨年4月26日に執行された市議会議員選挙の結果を見ると、20歳代28.04%、30歳代35.53%、40歳代44.05%、50歳代55.03%、60歳代以上で66.40%と若い世代の投票率が低い状況です。

若者の投票率が低くなると、若者の声が政治に届きにくくなることが懸念されます。

年代別投票率比較

古河市議会議員選挙(平成27年4月26日)



▲市議会議員選挙開票作業



「選挙に行こう！」 高校生も地域社会に参画

2月8日、市・市内各県立高等学校主催、市議会・市選挙管理委員会・市明るい選挙推進協議会の後援で初めて開かれた「高校生議会」。市内5校から4人ずつ20人が議員として選ばれ、市政について質問を行いました。

高校生の質問に、市長や教育長、市執行部が答弁する「一般質問」の形式をとり、議長・副議長も高校生が担当。通常の本会議さながらに行われました。一般質問は議員20人全員が登壇。市のイメージアップ、防災対策、通学路の安全確保など、高校生ならではの若い感性で意見やアイデアを市に投げかけ、緊張感のある議会となりました。

菅谷市長は「古河市が本当に若者に選ばれる市として活気づいてほしい。若い世代が政治に対する関心と参画意識を持ってもらえば」と、また、高校を代表して古河第一高等学校の佐藤誠校長が「この経験を友人、家族に伝えてほしい。若い子たちが政治を変えるのだから」と感想を話していました。



▲高校生の鋭い質問に真剣に答弁する菅谷市長



▲議長を務めた海沼駿太さん(写真上)と大山克実さん(写真右)



▲古河第三高等学校では教頭先生に啓発グッズを手渡し

▶三和高等学校では生徒会役員に18歳選挙権をPR



高校生に選挙啓発グッズを配布

古河市選挙管理委員会と古河市明るい選挙推進協議会は、茨城県の「18歳選挙権周知啓発統一キャンペーン」(2月8日～14日)の一環として啓発グッズを作成し、市内高校生にファイル1,000枚を配布しました。

合併10周年記念キャラクター「万寿王丸」等が印刷されたファイルには『18歳だ。投票に行こう!!』というメッセージ付き。市では若者が自分の住む地域に関心を持ってもらい投票率向上に結び付けるため、今後も幅広い世代に向けて啓発活動に取り組みます。

大型商業施設を誘致してほしい



菅尾 寿絵さん
(古河第二高等学校)

Q 古河市にはショッピングモールが少なく、洋服や文房具、実用品を揃えるのに不便を感じます。アスレチックやテーマパークなどが楽しめる憩いの場や子どもが遊べる場所がないので、大きな商業施設を古河市にも誘致してほしい。

A 大規模なショッピングモールは、単なる商品の販売だけではなく、利便性はもちろん娯楽性などの付加価値を持っていることから、子育て世代を中心とした多くの人が集う総合的な魅力を持った施設であると考えます。現在、市が進めている「若者に住んでもらい、安心して子育てができるまちづくり」や「賑わいづくり」の点からも、総合的な大型商業施設の誘致は必要不可欠であると考えています。市内の商工団体等と連携しながら、若者が魅力を感じる施設の整備やまちづくりに取り組んでいきたいと思っておりますので、皆さんの積極的な参加と提案を期待しています。

求められる若い力！ 高校生議員を紹介し ます



いしづかひろと
石塚大翔さん
(総和工業高等学校)



よしだあゆみ
吉田歩海さん
(古河第三高等学校)



さきやまたくみ
笹山拓己さん
(三和高等学校)



いでたじゅり
出田朱莉さん
(古河第一高等学校)



おのゆい
小野結衣さん
(古河第二高等学校)



よこせりお
横瀬莉緒さん
(古河第三高等学校)



はやかわえり
早川恵理さん
(三和高等学校)



あおきもえか
青木萌花さん
(古河第一高等学校)

10代の意見も聞いてください



投票率を向上させる取り組みを



みちざわりょう
道澤遼さん
(総和工業高等学校)

Q 公職選挙法の改正により選挙権年齢が引き下げられ、今年夏ごろの参議院議員通常選挙から私たち高校生も選挙に参加できるようになります。今回の高校生議会も投票率向上の取り組みの一環であると思いますが、投票率が低いことの原因は、私たちの世代の問題でなく大人の問題です。親の世代も含めて選挙への関心を高め、今後どのように投票率の向上に結びつけるのでしょうか。

A 投票率低下の原因は、大人だけの問題としてとらえるのではなく、社会全体の問題です。国政選挙の年代別投票率は20代、30代が他の年代より低い水準にとどまっています。今回の選挙権年齢の引き下げにより、一部の高校生も選挙権を持つことになります。皆さんが高校生議会を通して政治や選挙に関心と理解を深め、友達や家族と話し合いをするなど社会全体で気運を高めていくことが投票率向上に結びついていくものと考えます。



おおやまかつみ
大山克実さん
(古河第二高等学校)



いしかわなおと
石川尚人さん
(総和工業高等学校)



かわくぼはるか
川窪晴香さん
(古河第三高等学校)



ふくちゆうや
福知裕也さん
(三和高等学校)



かいぬましゅんた
海沼駿太さん
(古河第一高等学校)



ちくこうへい
知久航平さん
(総和工業高等学校)



すずきあいな
鈴木愛菜さん
(古河第三高等学校)



やまむらなつみ
山村夏生さん
(三和高等学校)



やぐちりょう
矢口稜さん
(古河第一高等学校)



むらかみなおや
村上直弥さん
(古河第二高等学校)

私たちも未来を一緒に考えます





タウンミーティングを開催しました

市と地域の未来を考える懇談会

市民によるまちづくりの推進を目的として、市長をはじめとする市執行部が地域に向き、直接市民と意見交換を行う「タウンミーティング」を、昨年10月7日から11月25日まで開催しました。多くの市民の皆さんが参加し、地域の課題や現状について貴重なご意見、ご提言をいただきました。

今後も市民の皆さんの声を聴く機会を設け、いただいた意見等を参考にしながら「市民が主役のまちづくり」に取り組んでいきます。

■実施概要

開催期間 平成27年10月7日～11月25日
※行政自治会の地区ごとに全20回を開催。

参加者数 1,274人

■質問事項

質問件数 454件

(事前質問229件、当日質問225件)

【問】企画課(総和庁舎) ☎92-3111

質問内容の主な内訳		
件数		内容
環境安全	181件	関東・東北豪雨対応 空き地・空き家対策 交通安全対策
建設	173件	道路・歩道整備 雨水排水対策
教育	25件	通学路の安全対策 学校備品の修繕
産業	25件	イベント内容の改善 企業誘致
市民サービス	24件	コミュニティの維持・管理
文化スポーツ	18件	市施設運営の改善
健康福祉	15件	ひとり暮らし高齢者対策
上下水道	9件	下水道・農業集落排水整備
その他	35件	
合計	505件	

※1つの質問で複数分野にかかるものがあるため、合計の数と質問件数は一致しません。

※上記質問の回答については、市公式ホームページに掲載しています。

タウンミーティングで寄せられた

質問と回答

今年度のタウンミーティングで市民の皆さんから多く寄せられた関東・東北豪雨に関連する質問について、主な質問と回答をお知らせします。

その他、市政全般に寄せられた質問と回答は、市公式ホームページに掲載しています。

災害対策本部の設置について

質問 関東・東北豪雨の際に、災害対策本部を設置した庁舎が水没してしまった自治体がありました。古河市も同様の事態に遭遇した場合、どのように対応するのか。

回答 災害が発生した場合、市役所総和庁舎に災害対策本部を設置することとしています。仮に総和庁舎が使用不可になった場合は、市役所三和庁舎に災害対策本部を設置することとしています。

防災行政無線について

質問 防災行政無線がよく聞こえなかった。対応策を検討してもらいたい。



回答 防災行政無線がよく聞こえないことについては、今後検証して対応策を検討していきます。まず、来年度から防災行政無線を聞き逃した場合に無料で通報内容を確認できる電話自動応答装置や、聞き取りやすい音声放送システムの運用を開始します。

洪水ハザードマップの掲載内容について

質問 ハザードマップには冠水する場所は明記されているが、今回の豪雨災害を受けて、冠水した際にどこが通れるのか明記してもらいたい。



回答 平成27年4月に配布した洪水ハザードマップは、国土交通省が作成した浸水予想区域図に基づき、利根川・渡良瀬川が氾濫した場合に予想される浸水区域や深さを示したものです。今回の豪雨災害の被害を踏まえて、道路冠水情報等を示した「洪水・道路冠水ハザードマップ」を作成・配布する予定です。

避難勧告・指示について

質問 避難勧告・指示はどのように市民に周知したのか。もっと広い範囲での周知が必要ではないか。

回答 避難勧告・指示については利根川・渡良瀬川沿いの防災行政無線、市公式ホームページ、消防署・消防団・市による広報車での広報、携帯電話による緊急速報メール、行政自治会連絡網で周知しました。周知不十分とのご指摘を踏まえ、今後さらに検討します。

古河市は 男女共同参画 宣言都市です

2月7日～13日は、古河市男女共同参画週間です。市では、平成21年2月に男女共同参画都市宣言を行い、男性も女性もすべての個人が、喜びも責任も分かち合い、その能力・個性を十分に発揮できる社会を目指して、さまざまな活動を行っています。

【問】人権・男女共同参画室(総和庁舎)
☎92-3111

男女共同参画フォーラム パートナーシップin古河2016

▶自身の経験や社会情勢などさまざまな切り口で話す
谷口さん



2月7日、とねミドリ館(生涯学習センター総和)で男女共同参画フォーラムを開催しました。講師は、テレビのコメントーターなどでも活躍する大阪国際大学准教授の谷口真由美さん。『おばちゃん目線で見ると社会問題～みんな幸せに暮らすには～』と題した講演では「身の回りの人と思いやりのあるコミュニケーションをすることが、より良い社会をつくる。『ありがとう、ごめんなさい、おめでとう』の言葉を大切にしてほしい」と、参加者約500人に語りかけました。

「古河市男女共同参画週間」
キャッチフレーズが決定！

古河市合併10周年、男女共同参画宣言都市7周年の節目に、男女共同参画週間のキャッチフレーズを募集。全国各地から応募のあった1,487点(一般608点、学生879点)の中から、最優秀賞が決まりました。

最優秀賞

「意識」から「行動」へ、
目指そう男女共同参画社会。

大山 藍さん(小美玉市)

※男女共同参画事業をはじめ、さまざまな場面での広報・啓発活動に利用します。



▲入賞者の皆さん

優秀賞

【一般の部】

- ・対等にいい汗 いい知恵 いい社会
- ・広がるね 夢も未来も 参画社会
- ・生かそう！ あなたの力 わたしの力

原田祥二郎さん(福岡県)
渋谷史恵さん(宮城県)
中田しのぶさん(東本町)

【学生の部】

- ・二つの色で作れる色はむげんだい
- ・男子力、女子力、共にひらく未来への扉
- ・みんなちがう でもいっしょ

沖田海璃さん(古河第六小学校5年)
松田樹奈さん(上大野小学校6年)
狩野繭子さん(総和北中学校1年)





男女共同参画の実現に向けて 活躍する市内の皆さんを紹介します



▲菅谷市長を表敬訪問しました(11月24日、市役所総和庁舎)

企業

三桜工業株式会社

事業所敷地内に保育施設「さくらんぼ」を設置し、育休明けからの職場復帰を支援しています。また、ワーク・ライフ・バランスの視点から業務の効率化に向けた部門横断プロジェクトを発足するなど、女性が活躍するための職場づくりを積極的に行っています。

昨年11月、男女共同参画社会の実現に向けて先駆的な取り組みをした企業に贈られる「茨城県ハーモニー功労賞」を受賞しました。

団体

(一社)古河青年会議所

昨年7月、市内在住の女性とさまざまな意見交換を行いました。

【意見一部抜粋】

- 仕事のモチベーションをアップするため、企業側が女性の活躍できる場面、場所、時間を作って育成すべきだと思う。
- 『イクメン』という言葉もあるように、男性に対しても育児休暇の取得を積極的に促したり、無料の託児所を設置したりするなど、企業側の協力も必要だと思う。



▲男性、女性それぞれの立場でさまざまな意見が交わされました



▲研修報告会で北欧の先進事例を紹介しました(2月13日、行方市で。写真中央が大里さん)

個人

大里ひろみさん(鴻巣)

県の事業「ハーモニーフライトいばらき2015」に参加しました。昨年11月、6日間の海外研修でフィンランドを訪問し、男女共同参画の取り組みを学んだり、福祉・教育の現場を視察したりしました。

男女共同参画社会実現のため、大里さんには地域でリーダーとなり積極的に活動を展開していくことが期待されています。

地域の安全・安心を目指し 防災・防犯活動で連携

晃陽学園・盈科学園と学市連携協定を締結

2月9日、市と市内専門学校の学校法人晃陽学園および盈科学園(齋藤行信理事長)が、防災や防犯活動に関する連携協定を締結しました。

看護学科や救急救命学科、危機管理学科に在籍する学生が、市の防災訓練に参加したり、市民運動会等で救護・警備活動をしたりすることは、夢の実現に向けて将来の職業に対する意識を高めることができます。人材育成や地域社会の発展につなげることを目的に、地域の安全・安心を目指しています。

「古河はなももマラソン」では、毎年多くの教職員と学生が救護活動に協力していただいています。今回の締結により、地域防災活動の連携・協力関係がさらに深まることになりました。

古河市及び学校法人晃陽学園と学校法人盈科学園の学市連携に関する協定締結式



▲齋藤理事長(右)と協定を締結した菅谷市長



▲毎年多くの学生が「古河はなももマラソン」にボランティアとして参加し、救護班として活躍

一致団結 第1回古河市綱引大会



▲1チーム8人で競技時間は無制限。チームワークや忍耐力など精神面の戦いが見どころです

2月7日、古河はなもも体育館(中央運動公園総合体育館)で、第1回古河市綱引大会(市・第74回国民体育大会古河市準備委員会主催)が行われました。この大会は、平成31(2019)年の茨城国体で、古河市を会場に公開競技として行われる綱引競技の成功を祈念して開催されたものです。

当日は、市内の自治会・職場・学校などから22チームが参加。1本の綱にそれぞれの力を結集して競い合いました。

市では、今回の大会を市の綱引競技の幕開けとして、市綱引連盟の設立、茨城県綱引連盟の設立など、組織の設立を進めます。あわせて近県大会の開催など選手の育成にも力を注ぎ、「いきいき茨城ゆめ国体」では古河市の選手の活躍が期待されています。

ぜひ、市民の皆さんも大会の成功に協力をお願いします。

古河市学校教育褒賞

古河市教育論文表彰式

2月4日、三和公民館(三和庁舎3階)で古河市学校教育褒賞授与式・教育論文表彰式が行われました。作文、絵画、ポスターコンクール、標語、吹奏楽など芸術・文化の部門で優秀な成績を収めた児童生徒17人・5団体へ学校教育褒賞が授与されました。また、教育論文で優れた成績を収めた教諭36人が表彰されました。



▲小学生の受賞者の皆さん

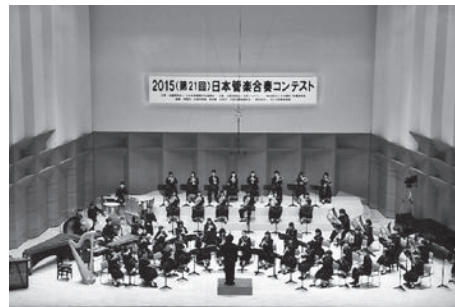


▲中学生の受賞者の皆さん

全国大会で入賞

「第21回日本管楽合奏コンテスト全国大会」が11月1日・8日に東京都文京シビックホールで行われ、中学校B部門で総和中学校吹奏楽部が最優秀賞、中学校A部門で古河第二中学校吹奏楽部が優秀賞を受賞しました。

「日本学校合奏コンクール2015全国大会グランドコンテスト」が11月15日に千葉県文化会館で行われ、中学校の部で総和中学校S(ストリング)・オーケストラ部が銅賞を受賞しました。



◀ 総和中学校吹奏楽部

部 ▶ 古河第二中学校吹奏楽部



◀ 総和中学校S・オーケストラ部

統計功労者表彰

総務大臣表彰(労働力調査)



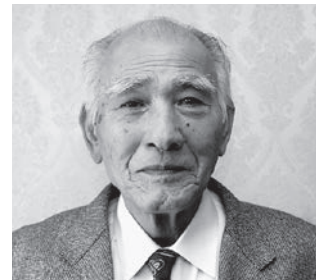
鈴木富男さん
(61歳、雷電町)

総務大臣表彰(労働力調査)



野口トミ子さん
(77歳、中田)

総務大臣表彰(各種統計調査)



斉藤幸次さん
(83歳、古河)

注目のまちの話題

● 春を告げる古河のイベント
古河華むすめが各地でPR

3月19日から4月5日まで古河^{くぼ}公方公園(古河総合公園)で開催される「古河桃まつり」。そして、3月26日から4月3日までネーブルパークで開催される「さくらまつり」。花桃から桜へ、次々と春の彩りを見せる古河市へ県外からも足を運んでもらおうと、古河華むすめが観光イベントなどでPR活動を行っています。

また、1月31日には新任の華むすめ2人も決定。着付けや接遇の研修に一生懸命取り組み、お客さまをお迎えする準備は万端です。



▲1月15日に開催された「気になる！イバラキ！産直市キャラバン In JR上野駅」で古河市をPR

● 住み慣れた地域で最期まで安心して暮らしていくために



▲参加者は具体的な事例に深くうなずきながら聞いていました

1月24日、とねミドリ館(生涯学習センター総和)で在宅医療・介護連携推進講演会が、医療・介護・福祉など関係団体の協力で太田秀樹氏を講師に招き開催されました。

講演では在宅医療の現場から見てきた住み慣れた地域で暮らすことの重要性などを紹介。また、社会全体で「人の最期のときの迎え方」を考える時期が来ていること、自宅で最期を迎えるためには専門家がチームで関わること、「地域包括ケアシステム」の充実が必要であることなどを講話しました。

● 「歩く脳トレ運動」笑顔でスクエアステップ



▲スクエアステップは、頭と体を使った手軽な介護予防運動です(1月29日、三和地域福祉センター)

スクエアステップとは、縦2.5メートル、横1メートルのマットを25センチ四方の升目で区切り、前後左右さまざまなパターンで足踏み(ステップ)を行う運動です。

平成26年3月、茨城県民大学のスクエアステップ講座の受講生が「古河さわやかステップ」を結成。健康寿命を伸ばし、地域に貢献しようと36人の会員が活動しています。また、指導資格を持つ20人の会員が、老人会や市の健康教室等で指導を行うなど、普及活動にも力を注いでいます。

● 子どもたちが元気にジャンプ
小学生なわとび大会



▲初参加の1年生も寒さに負けず、一生懸命に跳びました

2月6日、第41回古河市小学生なわとび大会が古河はなもも体育館(中央運動公園総合体育館)で行われました。

市内の小学生345人が参加し、個人の部・チームジャンプの部それぞれの優勝を目指しました。20人で跳躍回数を競うチームジャンプの部では、どのチームも大きな声を出しながら息を合わせて跳びました。優勝は189回跳んだ「えりこぐみ^{エスピー}」(仁連小学校)。

子どもたちはみんな元気いっぱいに跳び、冬の寒さを吹き飛ばしました。

● 2月7日は「フナの日」です



▲200年以上の歴史がある「鮎の甘露煮」。昔はそれぞれの家庭でも作られていたそうです

2月7日(フナの日)、古河鮎甘露煮組合が市内の特別養護老人ホーム8施設に「鮎の甘露煮」を贈呈しました。

今回で7回目となる事業に組合長の関口章さんは「古河の特産品である『鮎の甘露煮』は、カルシウムたっぷりの健康食品です。ぜひ、普段の食事でも召し上がっていただきたい」と話していました。

代々引き継がれてきたふるさとの味である「鮎の甘露煮」を、この機会に皆さんも味わってみてはいかがでしょうか。

● コミュニティ5地区合同
国道4号バイパスクリーン作戦

1月24日、国道4号線バイパスに隣接する5つの地区コミュニティ団体が合同で国道4号バイパスの側道など約12キロメートルの清掃を行いました。昨年までは、三和地区の2団体で実施していた清掃活動。市内団体が意見交換などを行い、交流を深めたことで「今年は地域住民が主体となり、ぜひ共同で事業を実施しよう」という機運が高まり、5団体で行いました。

大和田学区ふれあいの会会長の小曾根正一さんは「各会の役員さんの協力もあり、一斉に広い範囲を清掃することができました。道路利用者への『ポイ捨て禁止』などの意識啓発がより図れました。ゴミがなくなるまで、この活動は、継続して実施していきたい。次回もたくさんの人の参加をお願いします」と話していました。



▲寒空の下、たくさんの市民が参加しました(第13地区コミュニティ)



▲清掃後の炊き出しは世代間の交流の場になりました(大和田学区ふれあいの会)

ふる里日記

古河で育った
染谷さんの
ふる里の思い出

「ここでよく泣いていたなあ……」。古河に帰ってくるたび、幼いころから練習に明け暮れていた日々を思い出します。父は空手道は素人でしたが、熱心に勉強し、毎日自主練習に付き合ってくれていました。家が道場ではないので、自宅前の駐車場で、地下足袋を履いて泣きながら練習に打ち込みました。大学で寮生活が始まるため上京するころには、兄が全日本学生で優勝



▲帝京大学をこの春卒業。空手道部の女子主将を務めました
(写真提供：空手道マガジン月間JKFan)

し日本一に。そして姉は世界大会、全日本選手権、全日本学生、すべて優勝という偉業を成し遂げました。大好きな兄と姉が活躍し、誇らしく嬉しい気持ちと別に、私の頭の中にはいつも「まだ結果を残していないのは私だけ……」という悔しさがありました。

大学3年生の夏休み、私を変えた出来事があります。古河に帰り、両親と食事をしていたときでした。お店に飾られていたメッセージカードに心を奪われました。『人をねたまず、人と比べず、我身を信じ進むべし』。今まで兄妹と比べてばかりで、自分自身と向き合っていなかったことに気が付きました。幼いころから、頑張る姿を見守ってくれていた故郷が「自分を信じて、あなたらしく進みなさい」と背中を押してくれたようでした。そして、帰省するたびに温かく迎えてくれる両親に、どうしても結果で恩返しがしたいと思いました。

元気を取り戻し、夏休みも必死で練習し続け、ついに世界大会の切符を勝ち取りました。初出場の世界大会では、相手が誰であろうと自分の戦い方を貫くことだけを考えました。無駄なことは一切考えずに目の前の試合だけに集中して戦い、気が付けば銅メダルを獲っていました。苦しみを乗り越えたからこそ成長することができたと感じた瞬間でした。

世界でも通用するという自信をつけ、大学最後の全日本学生に臨みました。兄妹三人揃っての全国制覇がかかっていたので、優勝への執念は凄まじかったと思います。自分を信じて戦う強い気持ちが、気迫となって試合に表れ、ついに念願の三兄妹で日本一を獲ることができました。背負っていたものが軽くなり、安心感で涙が止まりませんでした。

私は一番苦しんだ時に支えてくれた家族、先生方をはじめとする周囲の方々、そして古河市への感謝の心を忘れません。この気持ちを力に変えて、今後も自分らしく挑戦していきます。



染谷真有美さん
[姉の香予さん(写真左)と優勝を喜ぶ]

図書館のオススメ

出版社…文藝春秋
分類…Fステ

【一般書】

○缶詰で男のもっとええ加減料理

石蔵 文信 著
土鍋で作って食べるから、片づけも楽チン。味つきの缶詰を使えば、料理初心者でも迷わず、作れる！ 医師が考えたノンストレスの簡単レシピを紹介する、「男のええ加減料理」第2弾。フライパンを使った超簡単レシピも掲載。

出版社…講談社
分類…596イ

○捨てる アンソロジー

大崎 梢 ほか 著
夢も目標も捨てるのは簡単よ。現実を捨てるのに比べたらねー。あなたの捨てたいものは、何ですか？ ミステリーからファンタジー、恋愛、ホラーまで、人気女性作家の書き下ろしによる9つの「捨てる」物語。



【絵本】

○ざしきぼっこ

武田 美穂 作
けんたは山道で2人の女の子に出会った。いっしょに遊んだあと、2人は消えてしまう。それは、ざしきぼっこと呼ばれる不思議な子どもだった……。日本の昔話に出てくる、こわーいおともだちを紹介する。見返しにイラストあり。

出版社…あすなろ書房
分類…E夕

【児童書】

○なりたて中学生 初級編

ひこ・田中 著
中学入学の直前、ひとつ隣の学区に引っ越したばかりに、まわりに知ってる友達はずゼロ！ヘタレのテツオは、ヘタレなりに立ち位置を探り始めた……。だれしもが通過したあの時期のドキドキを描く3部作の初級編。

出版社…講談社
分類…913ヒ

三和図書館

注目企業人

～市内の企業を元気に支えるみんなを紹介～

「毎日が勉強です」

油鉄印刷株式会社 鈴木 宏美 さん

印刷全般を取り扱う会社に入社して8年目の鈴木さん。チラシ、ポスター、シール、封筒、看板などの図柄やデザイン作成を担当しています。

ものを作ることが好きだったという鈴木さんは、学生の頃は美術部に所属。デザインの専門学校を卒業後、現在の会社に入社しました。「学校で学んだこととは別の知識や技術が必要だったため、最初はすべてが大変でした」と入社当手を振り返ります。今では複数のパソコンソフトを使いこなしながらデータを作成し、お客様の細かい要望にも対応できるようになったそうです。次々と出てくる新しいソフトにも対応し常に情報収集に努めています。「お客様の要望はできるだけ反映させたい。仕事に慣れ

た今でも毎日が勉強です」と笑顔で話してくれました。現在、後輩も入社してきているので、早く仕事が覚えられるように作業マニュアルを作成するなど、職場環境の整備にも努めています。

パソコンに向かって緻密な作業をすることが多く、夜遅くなることもある多忙な毎日。そんな疲れを癒してくれるのは愛犬の「ちゃ」と「こげ」。休日には、2匹と散歩に出掛けてリフレッシュしています。

■プロフィール

観葉植物を育てることが趣味。最近では家庭菜園にも挑戦しています。
28歳・上和田在住。



古河文化見聞録

枚田水石 ～知られざる古河の画家～

穏やかな流れの川のもと、雨模様の湿気を感じさせる空間のなかに、すっきりと立つ竹の姿がみえます。張りのあるみずみずしい葉をつけた竹が、墨の濃淡を使い分けて描かれ、画面の奥行きが表現されています。

清麗な趣のあるこの墨竹図の作者は枚田水石。あまり名は知られていませんが、幕末・明治時代に活躍した古河出身の南画家奥原晴湖(1837～1913年)の絵の師匠であったことから、晴湖の画歴においては必ずといっていいほど登場する人物でもあります。

▶枚田水石筆「滑川雨意図」



水石の画業についての詳細はよく分かりませんが、今日、目にするのできる水石作品からも、墨竹画を得意としたこと、また、晩年、晴湖に絵画の手解きをした画家として、古河の絵画史上にその名を残しています。

古河藩士・枚田源之丞

枚田水石は通称を枚田源之丞、諱は之盛、字を保之といました。後に勘解由と通称しています。「水石」は号で、このほかに竹所、文石とも号しました。

寛政8(1796)年2月18日、土井家の世臣枚田盛庸の嫡男として古河に生まれました。水石は文化4(1807)年に藩主土井利厚に御目見をし、文化8(1811)年家督を相続しています。

文政5(1822)年に利厚が亡くなり、利位が藩主となると、水石は文政7(1824)年に作事

奉行になったのち、文政9(1826)年江戸詰となって出府、普請奉行と目付役兼帯の役職につき、江戸の地で利位に仕えています。利位が寺社奉行のときは寺社役を務めるなど、利位が信頼を寄せた家来のひとりであり、昨年発表された鷹井伶氏の小説『雪の殿様』にも、その親密さが描かれています。

大塩平八郎の乱と水石

古河藩主土井利位は、天保5(1834)年大坂城代となります。これにともない、水石も大坂に引越し公用人を務め、翌年には公用人兼帯で御先手物役の職にありました。そうしたとき、大塩平八郎の乱(1837年)がおこります。

この時、水石は「擇ばれて急を江戸に告ぐ。其の発するや敵營の前を過ぐ。乃ち馬腹に身を横へて以て銃火を避け事なきを得たり。」(藤懸静也著「古河の画家」『古河郷友会雑誌』第20号)と、事件を幕府に報告する役目を果たし、乱の鎮圧にあたって功労があったことが伝えられています。

大塩平八郎の乱の平定という功績で、利位はこの年、京都所司代に栄転となり、水石もともに京都に移りました。翌年、利位が江戸西の丸老中に昇進、水石は用人に就任しています。

水石の絵画

古河・大聖院にある水石の墓碑には「好文雅善絵事」と、水石は文雅を愛し、絵を好んでいたことが刻まれています。南画家谷文晁(1763～1840年)の門人となり、公務の余暇を使って絵画を習いました。最初、師の一字を授かり「文石」と称しましたが、ある画会の席で、その号を譲って欲しいと望まれた



▲枚田水石筆「古河城涼櫓眺望図」

ため、以後「水石」に改めたといえます。

水石は、師の文晁の骨法をよく学び、山水四君子を得意として、特に墨竹に大変優れていました。「其の画く所よく写生を脱化し、落筆凝滞なく、竹幹竹葉共に其の姿態を保ち濃淡亦調へり。嘗て人に聞く。文晁は甚だ水石の墨竹を愛し、自ら其の画幀に向つて落款を施せること屢ありしと。蓋これ水石の墨竹に堪能なるを賞したるの言なるべし。」(同上)と、墨竹に定評のある画家であったことがうかがえます。また、「為人質直慷慨」と墓碑にあるように、師の筆意筆法に倣った、実直ともいえる水石の作風は、その人柄が反映されたものといえるかもしれません。

利位が老中を務めているころ、用人であった水石は、江戸で多くの文人墨客に接する機会も多く、福田半香、椿椿山、岡本秋暉などの著名な画家とも親しく交流したと伝えられています。

嘉永の頃、水石は多年の功勞を賞されて刀一口を賜り、古河に戻ります。その後も古河の地で筆をとり画技の研鑽に努め、得意の墨竹をはじめ多くの作品を描いています。文久3(1863)年8月14日、病により68歳で亡くなりました。

水石と弟子・晴湖

冒頭のとおり、水石晩年の門人には池田せつ、後の奥原晴湖がいました。古河での修業時代、晴湖は、池田家の親戚にあたる水石から南北合派の絵画を学び、師から「石芳」という号を与えられています。また、晴湖は古今内外の名画を模写することによって画技を

錬磨したといわれますが、それには水石がもたらした粉本類が大いに役立てられたものと思われま

す。晴湖の晩年の回顧談によると、師の水石のことを「華山、杏所等に就いては余程調べて居り学者でしたが絵は下手でした。」(『書画骨董雑誌』36)などといったようですが、一方「当時の女史(晴湖)も、竹の図には可なり自信があつたと見へ。『江戸に於ても、竹は誰にも譲り不申、之れ一に水石先生の御蔭と存じ……』(後略)(稲村量平編『奥原晴湖』)と古河の父親宛に消息したと伝えられるように、水石は晴湖の画業に影響を与えた人物だったといつてもよいでしょう。

『雪華図説』を著した藩主の利位をはじめ、その補佐にあたった鷹見泉石などはすでに知られていますが、古河藩には、水石のような余技に秀でた文人氣質の藩士が、たくさん存在したのです。

古河歴史博物館学芸員 倉井直子



▲枚田水石の墓「雲林院殿濃淡水石居士(古河市指定文化財)」

※次号(平成28年4月号)は休載します。

健康百科

第3回「古河市健康川柳」が 決定しました

市民の皆さんが自らの健康を考え、生活習慣や食生活に対する関心を高める機会となり、より多くの人に特定健診や特定保健指導を受診・利用していただきたいという思いから始めた「健康川柳」は、今回で3回目を迎えました。

今年度のテーマは「ダイエット」。各庁舎や健診会場で募集を行い、65作品の応募がありました。前年よりも応募数は減少しましたが、健診会場で「毎年、川柳を楽しみにしている」という声や、鉛筆を握りながら真剣に考えている人たちの表情は、とても印象に残っています。

応募作品の中には、ダイエットに成功して健康を維持している体験などもありましたが、ダイエットの失敗談や食べ物との葛藤を川柳にしている作品も多くありました。どの作品も応募者の熱い思い

が感じられました。

選考方法は、一次選考を通過した5作品の中から健診会場で投票していただき、入賞作品を決定しました。有効投票数は1,163票。あらためて皆さんの関心の高さを感じました。

投票の結果、今年度の入賞作品は次のとおり決定しました。入賞作品は、各庁舎や健診会場に掲示したり、健診をお知らせするパンフレットに掲載したりするなど、さまざまな健康づくり事業に活用させていただきます。たくさんのご応募・投票ありがとうございました。

自分では健康だと思っても、病気によっては自覚症状がなく進行する場合があります。しかし、健診によって早期に発見し治療をすることで、心身への負担も経済的な負担も軽減することができます。

す。さらに、健診は生活習慣を改善するきっかけにもなります。自分だけでなく、家族も安心して生活していくためにも、年に1回は特定健康診査やがん検診を受けましょう。

健康づくり課

最優秀作品

346票
健診を受けて見直す
ダイエット
船橋正司(上辺見)

優秀作品

242票
検査値を
チャンスと決めた
ダイエット
清水世津子(雷電町)

203票
腹八分 ベルトに誓う
ダイエット
鈴木忠利(駒羽根)

※敬称略。

最優秀作品に選ばれた船橋正司さん(72歳・上辺見在住)に、インタビューをしました。

Q 作品にはどのような思いが込められていますか？

A 食事や運動など、自己流のダイエットをしている人が多いですよ。 「せっかくやるなら、専門の先生のアドバイスを受けたほうが効果があるのでは」と感じ、川柳にしてみました。退職した2年前から川柳のクラブに入り、日ごろから感じたことをメモに書きとめています。

Q 日ごろ健康のために行っていることはありますか？

A 毎日約1時間歩いたり、講座や教室に参加したりして体や脳を動かすようにしています。健康で楽しい毎日を過ごしたいですね。



▲「月2回の川柳クラブが何より楽しみ」と笑顔で話す船橋さん

穏い パークの 魅力

古河の春『桃の花』



3月になりました。冬の寒さに終わりを告げ、吹く風にも暖かさを感じるこの季節を、待ちわびていた人も多いのではないのでしょうか。

海外の人から見ると、日本の自然はまるで魔法にかけられているように見えると、聞いたことがあります。いろいろな花が咲き乱れる春。自然でしか作れない、本当に美しい季節だと思います。

そして花桃の里、古河公方公園もまた、花桃が咲き「桃まつり」が開催されます。今年の「桃まつり」は3月19日から始まる予定です。きれい



▲昨年は約19万人の花見客でにぎわいました

な花桃を咲かせるために、管理の仕事をしているシルバーさんたちは、冬の間1本ずつ桃の木の周りに穴を掘り肥料を与え、また葉の病気を防ぐための手入れをして、開花に備えてきました。

公園内の花桃は、約8割が『矢口』という鮮やかな桃色の八重咲で、江戸時代からあるといわれている品種です。

『源平』は、紅白の八重咲の花です。1本の木に紅白の花をつけ、源平の合戦のごとく、紅白が競い合うように咲く姿からついた名前だそうです。

『寿星桃』は、樹高が低く、花が節々に密につくのが特徴です。

『菊桃』は、名前のとおりに花びらが菊の花のような形で、公園内の花桃の中で最後に咲きます。

春、うらかな古河公方公園で、ぜひ『桃』の花をお楽しみください。

【問】古河公方公園(古河総合公園)管理棟 ☎47-1129

表紙写真



古河市で初めて開催された「高校生議会」。若い世代の感性で見た地域活性化や少子化対策、防災・防犯などの一般質問を行いました。緊張した面持ちながらも、堂々とした口調で質問や提言を行う20人の高校生議員。「とてもいい経験になった」「質問を考える中で、自分の住む古河市に関心を持つようになった」という声が聞かれました。

表紙写真は、高校生議員による模擬投票を撮影したものの、輝く笑顔がまぶしく感じられました。

寄付



総和ライオンズクラブ(宮田俊夫会長)より結成40周年を記念して、総和地区の小中学校へ65万円の寄付。

古河市データ

人口



(2月1日現在) 住民基本台帳から
総人口… 144,546人(-169)
男……………72,691人(-120)
女……………71,855人(-49)
世帯数…58,827世帯(-70)
()内は前月比

★わが家のアイドル★



うつぎ かなと
宇津木 奏斗くん (2歳4カ月・諸川)

元気いっぱいの奏斗くん♥最近になって言葉で意思表示をすることが増えてきて、パパもママも奏ちゃんの成長が嬉しいです。すくすく大きくなってね♥

(父：翔太 母：志織)

今月の料理

和風ごぼうバーグ
＜高血圧予防食＞



- ①木綿豆腐1/2丁は、よく水切りしておく。干ししいたけ2枚は戻してみじん切りにする。
- ②ごぼうは縦4つ割りにして熱湯で茹で、麺棒などで繊維をつぶすように叩いてから粗みじんに切る。
- ③鶏ひき肉160gに卵1個、①②生姜汁大さじ1、片栗粉小さじ3、酒小さじ1、塩小さじ1/4を加えてよく混ぜ合わせて、12個分の小判型に形を整える。
- ④フライパンにごま油大さじ1を熱し、③を両面焼く。
- ⑤器に④を並べ、大根おろし、小口切りの万能ねぎ、ぽん酢しょう油をかける。 <4人分>

〈1人分〉
エネルギー=162kcal
タンパク質=13.8g
脂質=7.4g
カルシウム=85mg
食塩相当量=1.1g



(食生活改善推進協議会)

●今年度から市内幼稚園・保育園等が交替でこのコーナーを担当しています。



子育てアドバイス

読み聞かせは「心の脳」を育てる



●「心の脳」は理性以前に、わたしたちの行動をコントロールする根源的な脳です。人の脳は、使わなければ働くようになりません。

●「心の脳」の役割
お子さんに絵本の読み聞かせをしている家庭は多いと思います。読み聞かせは親子の絆を深めたり、子どもの「心の脳」を育てたりと、とても重要といわれています。幼稚園でも、日ごろから脳の働きについて、子どもたちにやさしく話をしています。例えば、「帽子はどうしてかぶるのかな?」「頭は大切なことを伝えることがいっぱいに入っているの。おはなしを聞くのも、お絵かきも、体操も、お歌を歌うことも、みんな頭の中の脳が命令するの:」など。子どもたちは不思議そうに、でも納得したような顔で話を聞いてくれます。

●「心の脳」の発達に関わる読み聞かせ
読み聞かせは、疑似体験でも「心の脳」に働きかけることで子どもの情緒が育ち、嬉しい・怖い・悲しいなどがわかるようになります。「心の脳」が育つと、行動もはっきりしてくるので、**●読み聞かせをする親にも良い効果がある**

読み聞かせを通じて子どもの様子をつきまわります。日常生活でも子どもの様子をよくみるようになり、ちよつとした小さな変化に気づき、親をほめ上手にしてくれます。読み聞かせは子どもの「心の脳」が育ち、何よりも親子のスキンシップがとれる、大切な時間となります。

ゆりかご幼稚園

平成28年3月1日発行

●発行所/〒306-0291 茨城県古河市下大野224-8 古河市役所 02880(92) 3111
●編集/秘書広報課 ●ホームページ/ <http://www.city.haraki.koga.lg.jp/>